



優秀賞

わが家の田植えを手伝って

秋田大学教育文化学部附属小学校 三年 鈴木 木彩花

私は、今年の春、初めてわが家の田植えを手伝いました。わが家は、おじいちゃんとおばあちゃんが、田んぼを作っています。田植えの時に、家族で手伝います。今年は、母と兄と私と親せきのお兄さんとで手伝いました。

私は、三つの事を手伝いました。一つ目は、田植えきに乗っているおじいちゃんに、「だし」という苗が植えられているケースを手わたすことです。だしは、土も入っている重くて少しうでがいたくなりました。二つ目は、空になっただしをあらう事です。ぐん手をはめて、用水路であります。用水路は、私のひざくらいまで水があつて、遠くのだしをとりに行く時に転びそうになって大へんでした。また、用水路には、田ヒルがたくさんいてこわかったけど、少しずつなれてきました。三つ目は、あらっただしを十ま

いずつ重ねてバンドで留める事です。この仕事は、さい初

からかんたんに出来ました。初めて田植えを手伝ってみて、さい初は大へんだったけど、やっているうちにだんだん楽しくなってきました。自分のしていることが上手になってきて、おじいちゃんに「上手になってきたな。」おばあちゃんに「手伝ってけで、ありがとな。」と言ってもらえたのでとてもうれしかったです。

お昼は田んぼにかこまれた中で、みんなでお弁当を食べました。お手伝いをして家族で外で食べるお弁当は、いつもの何倍もおいしく感じました。このお弁当に入っているごはんも、こんな風に一生けんめい作られている事がわかって、これからはお米を一つぶ一つぶ大切に食べようと思いました。

最後におじいちゃんに、田植えきに乗せてもらいました。乗っただけでも楽しかったけれど、後ろをふり返ると、きれいに苗が植えられていく様子を見て、とても気持ちが良くなりました。また来年も田植えの手伝いをしようと思います。